

田端文士村記念館
開館25周年記念展

第3弾

昭和の
田端

喪失と復興

田端に集まる
理由がある



田河水泡 画「ブル連隊長とのらくろ」

入場
無料

10月6日 2018年 土 ~ 2月17日 2019年 日

会場: 田端文士村記念館【JR山手線・京浜東北線
「田端駅」より徒歩2分】
開館時間: 10:00~17:00【入館は16:30まで】

休館日: 月曜日(祝日の場合は火・水曜)・祝日の翌日(土・日曜の場合は翌火曜)・年末年始(12月29日~1月3日)

関連イベント

講演会: 「田河水泡先生と私」 講師: 山根青鬼 氏(漫画家)
会場: 田端文士村記念館 多目的ホール 定員: 100名(事前申込制) ※ 詳細は裏面 無料

12月2日(日)
14:00開演 (13:30開場)

【主催】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171 【共催】東京都北区
【協力】(株)講談社/(公財)江東区文化コミュニティ財団 森下文化センター/野田宇太郎文学資料館

田端文士村記念館 開館25周年記念展 第3弾

田端に集まる理由がある 喪失と復興 — 昭和の田端 —

芥川龍之介の死から幕を開けた昭和の田端…やがて戦時色も強まり喪失の時代は続きます。戦争は、文士・芸術家たちの創作活動にも影を落としましたが、田河水泡の「のらくろ」にみられるように、同時代を生きる人々の心に光を与え、日常を支えた作品もたくさん生まれていました。また、明治・大正を彩った田端人たちの才能を受け継ぐ多くの二世が、幼少期を過ごし、巣立った時期でもあります。

本展では、終戦以前の田端文士芸術家たちとその第二世代の活躍、そして壊滅的な被害を受けた空襲後の復興にいたるまで、昭和期の“激動の田端”をご紹介します。



写真「芥川三兄弟」
昭和4年4月撮影



香取正彦 銅金「鶏」



建畠寛造 彫刻「ひと」



板谷梅樹 モザイク画「笛吹く人」



「水辺文 型染」



柚木沙弥郎 染色 「五彩文 注染」

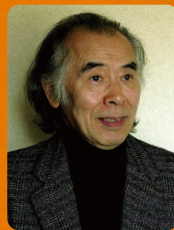
関連イベント

講演会

「田河水泡先生と私」

講師：山根青鬼氏（漫画家）

田河水泡の門下生であり、「のらくろ」の執筆権を継承した漫画家・山根青鬼氏が、師にまつわるエピソードや師弟の思い出などについてお話しします。



12月2日 日 14:00開演 (13:30開場)

会場：田端文士村記念館 多目的ホール
定員：100名(事前申込制) ※応募多数の場合は抽選

無料

申込：往復はがきで11/19(月) 必着
1通につき1名(同居家族に限り2名まで可、続柄を記入)

往信用裏面：①12月講演会希望 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤年齢
返信面表面：応募者の住所・氏名

宛先・問合せ

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館

TABATA Memorial Museum of Writers and Artists



〒114-0014 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分

※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<http://www.kitabunka.or.jp/tabata/> @bunshimura